



栗田保則 議員

厳しい財政をどう乗り切る、4選出馬の考えは

栗田保則議員 政策、財政に精通した鈴木町長の独自の政策が具現化し前進している。

しかしながら、昨年の豪雨災害復旧費、小中学校エアコン設備費補助率の低下、また過疎債の元利償還が始まることから、中央公民館建設が延期になった。

今後、診療所への繰り出し金など課題が多い。町長にはこの難関を乗り切り町政を前進させる責任がある。来春の4選出馬に期

町政前進へ、来春の4選出馬に期待

回答 行財政安定に向け、果敢に挑戦

伺いたい。

の魅力を再認識し、町外に発信しながら、子供から高齢者まで優しく共存できる社会づくりに目標に、身の丈に合った金山らしい暮らしを目指すことも重要になってくる。

財政は健全性を高め、加えて町民との話し合いを大事にしていく方針に変わりはない。

都市への一極集中や地方創生が進まない中で地方は何をするべきか、その1つにわが町

その達成のために熟慮し、シフトダウンやスピードアップがあつて良い方向に進むと確信している。また、行財政の改革改善は停滞なく焦らず、時機を逃さない怠ら

た。「中田」「漆野」「田茂沢・安沢」の3組合は令和元年度着工2年度完成の予定。「有屋」

「金山」の2組合は令和3年度着工、4年度完成の予定である。

デジタル防災面でも役に立つことがら支援を行う考えに変わりはない。

10分の6補助を上限に、財源確保に努める宮林総務課長 NHKに現在の状況を確認し



有屋難視聴地区

子育て世代への支援拡充を

回答 子育て支援の財源確保を優先

現時点での評価と今後の具体策は

大場洋介議員 人口減少は、地方から都市部への人口移動と出生率の低下が大きな要因と考えられる。

子育てしやすい環境づくりを進め、子育て世代の不安を軽減することが人口維持や移住増加につながることも含め、子どもも親も幸せに子育てできる町に向け更なるサポートが必要では。

丹総合政策課長 新・かねやま子育て応援プランにより、母子保険



大場洋介 議員

の拡充、各種祝い金の支給、医療費無償化など子育て世代への支援拡充とともに、仕事と家庭の両立支援により、社会全体で応援する体制を意識してきた。併せて、新・適時適育による家庭教育を浸透させ、子育て支援センターを核に「子育てがっこう」も実施した。子育て世代へのアンケートでは、養育にかかると経済的負担に不安を感じる方が多い。施策は拡充したが、

成果は一朝一夕には得られない。子育てや福祉の財源を優先的に確保し、制度の継続や浸透により、「結婚・妊娠・出産・子育て」を大切にす意識が共有され、特に若い世代で前向きに考えられる仕組みを充実させたい。

放課後学童クラブの環境づくりを

大場議員 町は仕事と子育ての両立を支援しているが、家族形態は共働きが主体である。放課後や休日に気軽に

に過ごせる学童クラブを求め、より健やかに育つ環境づくりを進める必要があるのでは。

佐藤健康福祉課長 国は運営基準で、放課後学童クラブの質の確保と向上を掲げている。

利用児童が、安全安心な環境で伸び伸びと生活し、家族が満足できる保育が提供できるよう、社会法人陽だまりとの連携を密に展開していく。

町長 地方分権一括法の改正で、放課後学童クラブ等の職員基準の緩和が柱の法律が可決された。自治体が地域

の実情に応じ職員数を決められるため、子どもたちの過ごしやすいう環境づくりが図られるようになる。

高齢者医療費の窓口負担の軽減を

大場議員 10月予定の消費税増税と同時に病院等の初診料が引き上げられ、患者の窓口負担増が懸念される。

年金生活者など、生活に困窮する高齢者の家計を圧迫する恐れがあり、考慮すべきでは。

健康福祉課長 子

育て支援医療費の支給と同様の助成が可能だが、他制度や健康な方との



動物たちと遊び癒される

負担の公平性も考える必要がある、慎重な検討が必要になる。町は、高齢者福祉として様々な支援をしているが、健康づくりや介護予防事業等に参加頂くことで、健康で自立した生活が送れるように支援していく。町長 高齢者も健康に過ごせるよう健康診断を充実させ、病気にかからずに生活できる社会づくりと健康長寿のための施策を考える。